

HSK — なんれん

おとふけ

NO. 25

昭和48年1月13日第三種郵便物認可
 HSK通巻第282号
 1995年 9月10日
 毎月10日発行(1部100円)
 (会費に含まれています)
 編集 財団法人北海道聴覚障害者支援部
 発行 北海道身体障害者団体
 定期刊行物協会(HSK)

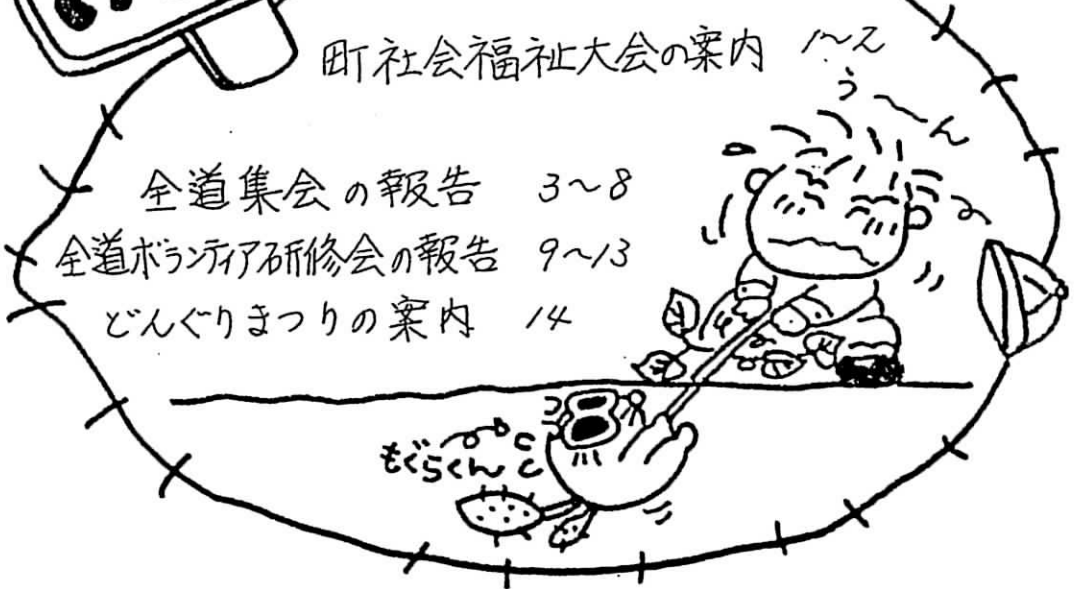


町社会福祉大会の案内 1~2

全道集会の報告 3~8

全道ボランティア研修会の報告 9~13

どんぐりまつりの案内 14



大会ローカーノ

- ・ 広げよう！ともに生きる福祉のまちづくり

大会主旨

昨年度から、音更町社会福祉協議会において、「ふれあいのまちづくり事業」を推進しております。

今、高齢者や障害者は、日常生活の大半を家庭や地域で過ごしており、地域社会は高齢者や障害者にとって生活の基盤です。

高齢者や障害者が住み慣れた家庭や地域社会の一員として可能な限り生活を継続できるように日常的にふれあいを深め、自立を支援する環境づくりが必要です。

そのために地域住民一人ひとりが協力しあい、共に手をたずさえながら、やすらかな日々を過ごせる住民参加の地域福祉活動の推進を図ることを目的とする。

主 催

音更町社会福祉大会実行委員会

音更町社会福祉協議会

音 更 町

日 時

平成7年9月10日(日) 午前9時30分～

午後3時30分

場 所

音更町文化センター

参加者

全 町 民

平成7年度音更町社会福祉大会日程

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 映 画 上 映 | 9:30~11:00 |
| 映 画 | ネバーエンディングストーリー3 |
| 2. 開 会 式 | 11:00~11:30 |
| 3. ひまわりバンド演奏 | 12:20~12:50 |
| 3. ボランティア実践発表 | 12:50~13:30 |
| 4. 講 師 | 13:30~15:00 |
| 演 題 | 「信念とおもいやり」 |
| 講 師 | 逸見晴恵 |
| 5. お楽しみ抽選会 | 15:00~15:30 |
| | 音更町商工会提供 |
| 6. 閉 会 式 | 15:30~15:40 |
| ◎ 催 し 物 | 10:00~15:40 |
| | ・介護用品展示 |
| | ・福祉施設作品展示即売 |
| | ・健康と栄養相談 |
| | ・その他 |
| 7. 昼食バザー | 11:00~12:30 |
| | — 食 200円 |

難病連音更支部では当日リサイクルバザーとJPC
(日本患者・家族団体協議会)国会請願署名行動を行
ないますので、手伝っていただける方は事務局まで
連絡下さい。 9月5日まで

“オスス回 難病患者・障害者と家族の全道集会終る。

7月30日(日)31日(月) /泊2日の日程で全道集会参加のため、札幌へ出発しました。参加者は会員家族・ボランティアの皆さん14名でした。天候不順でしたが予定のコースを回って元気に帰ってきました。来年は北見で全道集会あります

参加者の感想

パーキンソン病 菅原貞助
(支部長)

1995年度のオ22回 難病連全道集会は札幌道新ホールに於いて7月30日盛大に行なわれました。

当日は相憎の降雨に見舞われましたが例年通り拓殖バスのベテランの運転手さんバスガイドさんで、音更役場前を午前7時40分頃出発。道中雨・濃霧にたたかれながらも定刻までに会場に到着しました。既に9部通り会場を埋めつくし会場は熱気が湧いていました。道難病連事務局長の伊藤たかを女、小田常任理事の司会にて主催者側の挨拶、札幌市長の祝辞、道議会議員の紹介を兼ねた挨拶等、型通りの行事日程も済み、本年は特別講師として、フィンランドのタイ・ホル夫妻を招き福祉事業の先進地としての過程と現状を語り、将来の展望を尚一層充実した社会福祉国家にしたいと結んでいました。ただし人口

500万人北方圏に位置する還境の中の事業活動をそのまま鶴呑みする訳にはいかず、多くの差がある事は事実であります。

10数年前 私達が欧州諸国を訪問した時デンマークの首都コペンハーゲンでも通訳が語っていましたが、入居者の自殺者が増えて困るとの感想を語っていましたが、同国の施設においても同じ現象が見られるとのことでした。

社会・家庭の交流の大切さを改めて感じた次第です。

最後に大会決議文を採択、各支部を紹介してオ1日目を終えました。音更支部は難病センターに宿泊しました。オ2日目は札幌市郊外のハイジ牧場を見学。同牧場で飼育した牛肉でジヨッキを傾け、腹ごしらえをして帰途につき予定通り無事到着しました。

本年は雨の中の全道集会でしたが我々の署名を添えての陳上請願が国会に於いて採択され私達の運動に希望の光が見えた年でもあり、尚一層努力を続けるべきと存じます。此の全道集会に際し拓殖バス、ボランティアの皆さん(一般社会人 帯広高看保健学科生、大谷短大生)お世話いたたいたご厚意に心から感謝申し上げます。ご報告を致します

皆様 こんにちは 平成7年度北海道難病連
全道集会に今年も皆様のお陰で元気に出席さ
せて頂きました。又 山崎さんも行かれて非常に
嬉しく思いました。尚 音更支部長の菅原さんも
心配して居りました所、予想以上の良い状態で
出席して下さり安心致しました。あの頑張りには
教えられる所が多々御座居ました。

又役員が先頭に立ち、ボランティアの方々も誰彼の
別なくお世話をして頂き誠に有難うございました。

尚当日は無事会場に到着し集会に出席。
ビール園での会は雨の為中止となり部屋で休み
ましたが暑い夜でした。

翌日、朝食後も雨が止まず8時過ぎ出発後
雨が一時止んだ所でハイジ牧場に行くと、トンボ
も沢山お出迎えで、つかまえるのに大さわぎ後
取りあえず昼食となり、先づビールを飲み、

成吉思汗を食べ、出た折には小止みとなり
途中、夕張メロン等を置いている店に寄り、メロンだけ
求め、其の後例のガラス工芸店に寄り工芸品を少し
求め後は車中の人となり、車内での当りものクイズ
等あつと言う間に帰宅しましたが、とても楽しい
帰路でした。役員始めボランティアの皆様方には
大変お世話になりました事を重ねて厚く御礼

申し上げますと共に皆様方の御健康並ひに御多幸をお祈り致しまして筆を止めさせていただきます。

来年の全道集会 目指して頑張りましょう

日高路や 万緑みちて バス青し

(佐藤時重)

帯広看護保健学科 雄城智美

今回 初めてボランティアを経験させてもらい
る日間という短い時間ではあったが、色々考える
機会になり、良い経験だったと思う。

看護婦で病院に勤務している時には気付か
なかった事も気付く事が出来た。その一つは
最近では色々な施設が車椅子で利用しやすくな
ってきまっているが、まだまだ不便だなと感じる点
も多かった。車椅子を持ち上げなければ段差
が上げられなかったり、抱きかかえなければトイレに
入れなかったり、洋式トイレがなかったり...という点
が目につき、外に出るのを楽しみにしている人達の
行動範囲を広げていくためには、改善必要な
部分は多いと思う。

又、全道集会に参加して、疾病をかかえた本人
家族の頑張っている姿を見て、地域で生活して

いくために保健婦として出来ること、しなくてはならないことは何か、これから学習して中で考えていきたい。

帯広高看保健学科 藤平さつき

1泊2日の旅行に参加させて頂いて、とても楽しい思いをさせてもらったし、とても勉強になった。ただ腰をケがしていたため機敏な動作ができず周りの皆さんに迷惑をかけたのではないかと気がかりに思う。

私は支部長さんが担当となっていてバス中で隣に座った方がよいということだったが、ブレーキの時もしっかり座位を保持でき、手を貸す必要はなかった。それどころか走行中なのに通路をはさんで横にいた山崎さんのことを気にかけて、立ち上がる動作があり驚いてしまった。入院していたということでも心配だったが元気そうに見え、本当は体調が思わしくなかったのかもしれないけれども、気分転換をしたことで、病による不快さを吹き飛ばしてくれればと思った。奥さんやお孫さん達に囲まれて精神的支えになっているのだと感じた。

ボランティアの人達とも知り合えてとても楽しく嬉しかった。全道集会の記念講演で福祉先進国フィンランドの状況・努力してきたこと、団体をつくることの意義など興味深く聞くことができた。

刑務所と精神病院が世界の鏡であるということ
を忘れず、社会人として仕事をしていかなければ
ならないし、鏡も自分自身も磨いていかなければ
ならないと感じた。

これからも機会があれば力になつていきたいと
思うし、十勝で就職出来れば、また来年も参加
させて頂こうと考えている。一生懸命勉強し頼ら
れる人間になれるよう努力して、人のため、自分の
ために生きていきたい。



ご寄付 ご寄贈 ありがとうございます

稲上 稔 様 5000円

菅原 貞助 様 10000円

本折 広志 様 行事用シート 1枚

藤田 一義 様 官製ハガキ 85枚

菱岡 道夫 様 車イス 1台

今年も6月10日(土)11日(日)に札幌JR研修センターにて(財)北海道難病連主催の全道ボランティア研修会が開催され、音更支部より社会人2人、大谷短大生2人に参加していただきました。参加者の感想文です。

芳村 加奈子

ボランティアって何？

ほっとおけない気持ちです。このような考え方の中で常日頃ボランティア活動に参加している私が縁あって音更の難病連に顔を出して8ヶ月が過ぎ、この度全道研修会に参加できた事を大変嬉しく思っております。

6月10日快晴の中出発。大和なでしこの小山さん元気いっぱい短大生と計4人。口数の少ない小山さんに無理に語らせた3時間。胸中沢山の意見持っている事を知る。

1泊2日4名の人員が目いっぱいの講義と実技である。教官の熱意ある指導と事務局の難病患者に対する並々ならぬ努力には頭が下がり、私達に容易に伝わってくる。

目の不自由な方への介護の仕方は何度経験しても感情が先にたつて思ようにならない。アイマスクでの食事はその事を伝え合うことが難しい。

車椅子では、使用方法をじっくり教えられながら
乗せてもらいながら、果たして苦痛なく、障害者に
出来るかと不安にも成る。

そしてリハビリの講義では訓練する事の大切さ
と聞き上手に成る事を勉強する。

最後にディスカッションでは、今「家族に障害者が
いた場合」を題して年齢問わず真剣に語る
20代から65代の年齢差はその意見に違いを
思うが有意義な時間であった。

研修が終って 障害を持っている人も、持たぬ人も
希望をもって生きる事、あきらめない事が必要で
ボランティアは特別な事は出来ない唯 基本を守り
事故を防ぐ事と知りました。

リサイクルバザーで作った大切な資金を利用して
参加させて戴いた私は、今後共 微力ですが難病連
に生かす事でお礼とさせていたたきたいと思いきす
有がとうございました

小山みどり

6月10日11日と難病連のボランティア研修に札幌
へ行って来ました。研修が始まるとすぐに実技と
いうことで外へ…それもアイマスクをつけて初めての
道を歩くという、おそろしい実習でした。

おそろしいの一言では表現できない、不安と指つと

ものが見えない悲しさと少々のいかり(いったいどこまで歩けばいいのだろう)と、始めもわからなければ、終りもわからない まっくら闇。ほんの10分程度歩いたのでしょうか? 長〜く、長〜く感じました。いつもの歩くという動作とまるでちがう世界でした。目が見えない人達は、こんな想いをして生きていかなければならないのかと、カク然としました。

2日目の昼食時もアイマスクをつけて食事でした。におい、音、気配、普段それらに頼っていないものに神経が集中しました。食事をしているとは思えない程楽しくもうれしくもないんです。ただ食べることにいっしょうけんめいで疲れました。

これからのボランティア活動で、目の見えない方たちと楽しく散歩したり、食事をしたり、そんなチャンスに恵まれることを心から願いました。

大谷短大1年 福沢 綾子

私は1泊2日と言う短日程の中で、この研修会の講義を通して、障害者の人々の多くの事を勉強できた事としても感謝しています。実際に自分が障害者の立場に立つアイマスクを付け、視界ゼロの世界で外を歩き、何も見えないと言う精神的不安をもちながらデコボコ道や横で車が行きかう道を歩くことは、大変怖い体験でした。また今回私は初めて車椅子に

乗ることができる」と聞き期待していたものの、私の予想に反して車椅子の操作の難しさを思い知らされました。

普段は全々気にもしないちょっとしたくぼみに車輪がとられ操作の自由を奪われ、何度も車道に落ちそうになる危険に遭遇しました。体の不自由な人が私達同様に普通の生活を送る事は、私の想像以上に不自由で、危険を伴い過ごしづらさを直に感じる事ができました。また、障害者の生活を支えていらっしゃるボランティアの人達の話を聞くことで、障害を持つ人も元気に自立した生活を送ろうと努力している話が聞けて、とても嬉しく感心させられました。

これからの介護の必要性を強く感じる事もできました。たくさんの人達とお話が出来てとても嬉しかったです。ありがとうございました。

大谷矢豆大1年 村上絵里

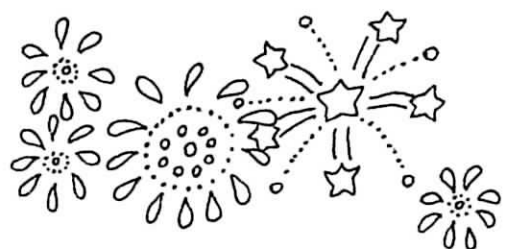
6月10日11日と2日間を渡り、札幌でのボランティア研修会に参加しました。本格的にボランティアというものを学ぶのはこれが初めてで、少々不安でしたが、楽しく過ごすことができました。

まず講義・実技で視覚障害者歩行介助訓練を行いました。目の見えない人に対してどう接していいのかわからなかったのですが、特に気をつけなければならぬことさえ守れば、何もしなくていいということも

知り、少し気が楽になりました。アイマスクをして手を引かれると、最初はこわくて仕方なかったのが手引者がいるという安心感が後から生まれ、手引者より楽になってしまうのが不思議でした。その後の講義もとても勉強になりました。

次の日の移動介助実習、車椅子移動実習も初めての体験で何から何まで新鮮でした。体の不自由な人を移動させるのはどれだけ難しいのかと思っていたのに、コツを知っていれば楽に出来ることがわかり感動しました。車椅子に乗った人を、女の人3人だけで移動させることが出来るのもまた感動しました。

この研修会に参加して、体験してみるとの大切さを知りました。又、様々な人の様々な考え方を聞くことができ大変役に立ったと思います。たった3日間だけでしたが、私にとって重要な3日間であったと言えます。



花火販売に
ご協力いただきまして
ありがとうございます

今年の総売上は

29100円 でした

来年もよろしくお願ひします

日時 10月1日(日)
9時30分~15時

- 内容
- ・パークゴルフ(9時30分~12時)
(緑南中学校 9時集合)
 - ・焼肉・焼魚、他
(どんぐりの家 12時~15時)
 - ・カラオケもあります

参加費 一人 500円(小学生以上)
(各自オニギリ・飲物持参)

どんぐりまつり
の
ご
あ
ん
な
い

※パークゴルフの道具は用意してあります

申し込みは
音更支部事務局
TEL・FAX 31-8723

申し込み切は
9月25日(月)

天候不順の時は
宝来軽スポーツセンター
にてゲームを行ない
ますので、9時まで
にスポーツセンターに
集合して下さい

— HSK・なんれん おとふけ —

編集人 (財)北海道難病連音更支部 穀内 さかえ
音更町

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

1995年9月10日発行 HSK通巻282号

発行人 北海道身体障害者定期刊行物協会 細川 久美子
札幌市中央区北9条西19丁目